



2026年3月27日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾図書館所蔵の「論語疏（ろんごそ） 卷第六」が国宝に指定

—中国で失われ日本に伝わった世界最古級の「論語」注釈書—

慶應義塾図書館（三田メディアセンター）所蔵の「論語疏 卷第六」が、このたび国宝に指定されました。

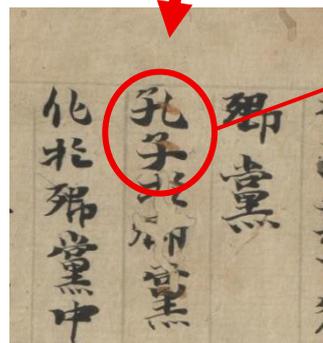
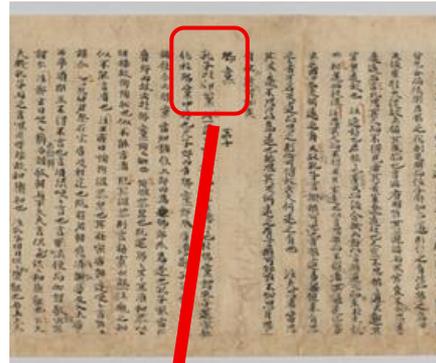
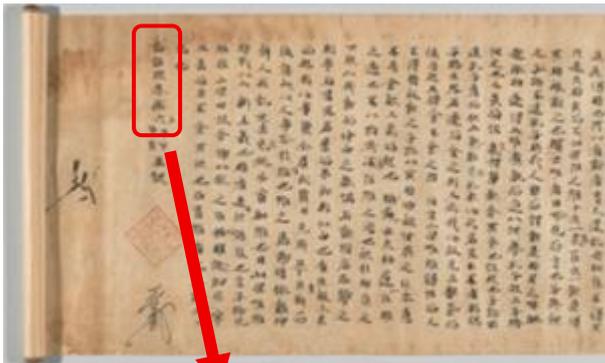
本資料は、重要文化財に指定されてから1年を経て、その希少性と重要性があらためて評価され、国宝指定に至ったものです。

1. 資料の価値

『論語疏』は『論語義疏（ろんごぎそ）』とも称される、中国南北朝時代の学者である梁の皇侃（おうがん）（488～545）の手による『論語』の注釈書です。この『論語義疏』は中国国内では散佚し、国外にのみ伝本が存在した「佚存書（いつぞんしょ）」として広く知られています。今回国宝に指定された本資料は、『義疏』の成立から数十年しか経ていない6世紀頃の写本であり、平安時代前期には日本に伝来していたと考えられています。

中国から日本に伝来した資料のうち最古期のものであり、作成年代が近い皇侃・鄭灼（ていしやく）撰「礼記子本疏義（らいきしほんそぎ） 卷第五十九」（『礼記』の注釈書）（早稲田大学図書館蔵）はすでに国宝に指定されていることから、これに匹敵するものと評価されたこととなります。

* 「論語疏 卷六」（部分）



「孔子」と書かれているのが読み取れる

2. 資料についての詳細

「論語疏卷六」についての詳細は、以下をご覧ください。

- 『慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究』慶應義塾大学論語疏研究会 編 / 勉誠社 2021年11月 ISBN 978-4-585-31004-4
- 『論語疏』—中国6世紀写本の出現と公開 (【Keio Report】) / 佐藤道生
https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/other/202011-keio_report_1.html
- 『論語疏』巻6文化財指定の顛末 (MediaNet no.32 (2025)) / 住吉朋彦
<https://www2.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/article/pdf/03200440.pdf>

「論語疏卷第六」は、「慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション」で公開しています。

<https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/rongoso>

3. 国宝指定に関する詳細

国宝指定に関する詳細については、文化庁の報道発表にあるこちらのページをご参照ください。

- 「文化審議会の答申 (国宝・重要文化財 (美術工芸品) の指定等)」 (文化庁)
https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/94350901.html

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、教育部、文化部等に送信させていただいております。

・本リリースの配信元

慶應義塾広報室 担当：道祖土 (さいど)

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>